

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

63

大和茂之

皆さんも存じのように、ヤドカリは貝殻の中にすんでい
る。海の巻貝はほとんどが右巻
きであり、そのような貝殻にす
むために、ヤドカリは体を大き
く作り替えなければならなかつ
た。



ヤドカリ

この足が毛状に長く伸びてそ
に卵を抱える。さらに腹部の先
端に付いている尾肢も左右で形
が異なっている。このような腹
部の左右不相称は、貝殻にすむ
ことをやめたヤドカリ類である
トラバガニやヤシガニでも見ら
れる。

はさみ足も左右で違う種類が
多い。磯にいるヤドカリでは、
ホンヤドカリは右が大きく、イ
ソヨコバサミの仲間は左右ほ
ら。

また足も左右大
きく違う。例えば、
腹部の足は左側のみ
に付いている。雌は

△
左のはさみが大きい
ソメンヤドカリ
(水槽番号211)

左右不相称の体

今福さんから直接教えていた
だいた「南方系と北方系のはさ
みの大きさの覚え方」は次の通
りである。

南方系のもは黒潮に沿っ
て、北方系のもは親潮に沿っ
て移動していて、陸の方には上
る」と日本列島に手を掛けたと
きに、伸ばした方の手が大きく
なっているというのである。

真偽のほどは別にして、黒潮
や親潮という日本の海洋生物相
を成り立たせている要因を取り
入れた、うまい説明になってい
ると思う。(京都大学助教)

最近になって、ヤドカリのこ
とがテレビでよく取り上げられ

るようになったのは、京都大学
名誉教授の今福道夫さんの紹介
によるものが大きいだろう。今
福さんは、大学院生の時代から
瀬戸臨海実験所を頻繁に利用さ
れてこられたから、そのヤドカ
リ研究の大半は白浜で行われた
ことになる。

類群では左が大きいものが多
く、北方系のもでは右が大き
いものが多い。

たソメンヤドカリなどでは左が
大きい。この特徴は分類群によ
って決まっています、南方系の分
類群では左が大きいものが多
く、北方系のもでは右が大き
いものが多い。